Ⅲ教育委員会点検・評価書

１教育委員の活動

1 教育委員の活動

(1)概要

浦添市教育委員会は5人の委員で組織されています。
委員は、毎月1回の定例会と必要に応じ、臨時会へ出席し、付議された案件について、審議等を行っています。
　また、学校や地域行事等への積極的参加や、教育委員会連合会を通して、他市町村教育委員会の情報収集教育行政に関する諸問題を研究討議し、浦添市の教育行政の発展のために努めています。

(2)教育委員名簿

(平成25年3月31日現在)

役　職　名	氏　　名	任　　期
委員長	伊禮　厚子	平成21年4月20日～平成25年4月19日
委員長職務代理者	仲宗根　加代子	平成22年10月1日～平成26年9月30日
委員	平良　寛吉	平成23年4月1日～平成27年3月31日
委員	多喜　和彦	平成24年10月1日～平成28年9月30日
教育長	津波　　清	平成23年10月3日～平成25年4月19日

(3)教育委員の活動状況

	内容	件数
1	教育委員会の会議(定例会・臨時会)	24
2	教育委員の資質向上(研修会等)	8
3	学校訪問	18
4	学校行事(儀式・体育行事等)	72
5	各種行事(大会等)	52

(4) 教育委員会の会議

①事務局の詳しい説明によって話し合いを深めることができた。
②会議資料等の各委員へ事前通知は徹底されておらず、決議が形骸化する可能性もある。

③委員会審議は、事務局の提案を追認するのではなく、活発に意見を述べ合い審議を深めることができた。
④教育長報告は、文書でもって懇切丁寧になされていた。
⑤委員会後に勉強会をもって、委員と職員との情報交換を行い意思疎通を図り委員会の活性化につとめた。
⑥本教育委員会は、性別・職業に偏りのない委員でレイマンコントロールがなされている。

意見

① 前年度の月に2回の定例会を1回に変更した。実際には臨時会になり調整が困難である。よって2回復活が望ましい。
② 教育委員会の会議開催方法、議事の進行方法等は一部改善が必要である。
③ 教育委員会の運営規則細則，決議の取り方等を明文化し、会議録などの作成を含め適正な運営が望まれる。
④ 議事の内容については、概ね妥当なものと思われた。（ただし、「通学区域の変更」固定資産の課税の基礎となる不動産価格に影響を及ぼす価格形成要因の変更であるにもかかわらず細かい配慮が不足している。）

(5)教育委員の相互連携と資質向上

①沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会（マティダ市民劇場）

講演　上間信久（琉球朝日放送　社長）

演題　「名護親方が望んだ人材育成～いろはうたより」

成果

㋑ 講演では、18世紀初め沖縄文化の黄金時代に中国に渡り儒教や漢詩気象学など学問を学んだ偉大な人物、名護親方(中国名　程順則)について学べた。
㋺ 人が人として身につけなければならない6つの教えを持ち帰り、琉球王国のみならず徳川幕府に影響を与えた。6つの教えを分かりやすく琉球の歌に詠み順にまとめたという。

感想

㋑ 人としての道の書「琉球いろは歌の世界」「意見ゆしぐとうや身の上の宝、耳の根ゆあきてい肝のとうみり」～人さまも意見や話はいずれ自分の宝物になる。耳をしっかり傾けて心に留めなさい～の黄金言葉に胸打たれる。
㋺ 分科会　第一分科会「教育委員会の活性化について」
第二分科会「防災教育の充実について」
第三分科会「地域で取り組む子育て」

成果

㋑ 委員会は、単に追認機関でなく各委員の見識を活かして協議を深める。
㋺ 委員会は自主的に学習会を持ち委員間の意思疎通と活性化に役立てる。
㋩ 各学校の学力向上実践報告会に参加し激励する。

㋙　市長と委員との教育懇話会をもって市の教育課題について話し合う機会を持っている。

㋚　市内各種団体との教育懇話会を持ち情報交換とその共有に努める。

㋛　学校の安全管理体制を見直し子どもたちの安全確保対策のみならず、教職員の安全確保にも万全を期す必要がある。

㋜　子どもの教育は、家庭・学校・地域社会が一体となって、それぞれの役割と責任をもって果たすことが重要である。

感想

㋑　宮古は来客を大事にするもてなしの文化が根づき充実した研修ができた。

②第１回那覇地区教育委員会連合会

㋑　那覇・浦添・久米島・南・北大東の５市町村の教育課題について話し合い、情報を共有し、那覇地区全体の教育充実に向け取り組んでいる。

③第２回那覇地区市町村教育委員会（那覇市役所）

㋑　部活の終了時間やいじめについての条例制定に関する情報交換ができた。

④平成24年度沖縄県市町村教育委員会研修会（那覇市民会館中ホール）

・研修１　「沖縄教育の変遷～復帰40年を振り返って～」
講師　津留健二（沖縄女子短期大学特任教授　教育実践支援センター長）

・研修２　「沖縄の歴史と文化」
講師　古塚達朗（那覇教育委員会　文化財課長）

成果

㋑　復帰前の沖縄教育は「異民族支配下における日本国民の育成」で復帰後の沖縄教育は「あすの沖縄県を拓くジンブナーの育成」と分析

㋺　これからの沖縄教育は「沖縄21世紀ビジョンの実現を担う人材育成」

感想

㋩　言葉に力があり聴衆を引き付ける話術でいつどこで拝聴しても感銘を受ける。先生のお人柄、高邁なご識見、卓越した教育手腕に感動した。

㋥　沖縄の子どもたちの良さとして、思いやり・明るさ・素朴さがある。一方短所として根気強さがない、自ら学習する態度に弱い、ケジメのある生活がないと指摘された。この短所を如何にしてなくし、長所を如何にして伸ばしていくかが今日的課題だと話された事が印象的であった。

⑤歴史ロマン街道等

感想

大変面白い企画である。全長約５kmと広報にあるがＧＰＳ測定で6，5kmもあり誤差が大きすぎる。てだこウォークもコース名の表示より長い距離を歩くコースもありそのことを事前に説明する必要があると思った。

(6)学校訪問

① 合同訪問

成果

㋑ 学校訪問を通して幼児児童生徒の学習や学校の現状、課題について理解を深めることができた。

㋺ 学校訪問のテーマを「いじめと問題行動の実態と対策」「学校における危機管理について」とし、テーマに沿った説明を受けることができた。

○授業参観

様子

㋑ 電子黒板やパワーポイント等、視聴覚機器の活用による授業実践

㋺ 教師による一方的な知識の伝達ではなく児童生徒に考えさせる授業の展開

㋩確かな学力を身に着けるため細かな指導と基礎基本を重視するわかる授業

感想

㋑ すべての子どもが授業参加のできるグループ授業、男女４人が「ここどうするの、教えて」と聴き合い学び合い支え合い互いにケアする姿に感動した。

㋺ 児童生徒が自ら考え自らやり遂げたという達成感を味わせることがいかに大切な事かという場面を見せてもらった。一人ひとりの児童生徒に自信と誇りを持たせ「やる気」をおこさせて確かな学力と豊かな人間性の育成に汗を流す先生方が多くうれしい気持ちになった。

○教育環境の課題

㋑ 天井や壁に水漏れから生じたと考えられる、黒カビの発生がみられ、胞子の飛散が児童の健康に影響を及ぼさないか気になった。

㋺ キャスター付の備品に地震時に転倒する可能性のあるものが見受けられる。壁などへの固定が望ましい。

㋩ 防火扉や消火栓施設に紅白幕の設置がなされており安全設備の管理にも配慮が必要である。

㋥ 学校内の壁等に人気キャラクターに類似した絵があり著作権等について気になった。

○　テーマ１「いじめの問題について」

㋑ 県教育長庁のいじめの定義について
①体に対する暴力②言動による脅し③　嫌がらせや仲間外れ無視など三つに分類している。

㋺ いじめは本質的に人間に対する攻撃的差別であり人権問題である。昨今のいじめの事例を見ると温かい人間関係の欠如、子供の前での不用意な教師批判、教師と子供間の節度を越えた言葉づかいなどが指摘されている。

㋩ 早期発見によって陰湿ないじめは克服することができると言われるが現実には困難を極める。日頃からいじけは犯罪であるという規範意識をうえつけることが必要である。

㋩ 各学校とも年に数回アンケート調査を実施し、早期発見、早期対応に努めいじめは減少し、陰湿ないじめは見られなかった。

㋭ いじめ問題の解決には、家庭・地域・関係機関との連携は欠かせない。学校ぐるみ地域ぐるみの指導体制の確立が不可欠である。

感想

㋑ 不登校の生徒も増加傾向にあり原因も多様化している。早期対応が必要。学校職員、カウンセラー、心の教室の相談員が家庭訪問や電話、迎え等取り組んでいる。一人でも多くの生徒が復帰できるよう教育委員としてサポートしていきたい。

○ テーマ２「学校における危機管理について」

平成 23 年 3 月 11 日発生した東北地方太平洋沖地震の揺れと津波により、死者 1 万 5881 人、行方不明者 2668 人、避難者 31 万人、離職者 8 万人の未曾有の災害を受けた。沖縄県内にも１千人超えの避難者がいるという。

琉大研究班は、「Ｍ８を超える巨大地震が発生し、沖縄本島は震度６前後の揺れに見舞われる可能性がある」と指摘している。（沖縄タイムスH23, 5, 10）学校ではこのような状況を決して対岸の火事として受け止めるのではなく、これまでの学校安全管理体制を見直す必要がある。

成果

㋑「備えあれば憂いなし」で、いつ、どこで、何が起こるかわからない災害に備えて各学校とも危機管理マニュアル（地震・津波への対応）を作成し、マニュアルに基づいて災害訓練をしていることの確認ができた。

㋺ 地震発生が児童生徒の在校時と在校時以外の場合に関するマニュアル及び保護者へ引き渡しのマニュアルの確認ができた。

・ 児童在校時におけマニュアル～児童及び教職員の安全確認の対応と登校時　自宅（休日、夜間等、校外学習時の対応）～

・保護者への引き渡しマニュアル～保護者への情報提供、連絡網による連絡、きめ細かい引き渡し実施上の留意点などがある。

・ 各学校では年に2回訓練を実施しており「自分の生命は自分で守る」 という危機意識を持って参加することが大切である。

課題

㋑危機管理という視点から第一にあげられるのは危機意識が薄いことである。特に沖縄は、大きな地震と津波はないだろうと誤った考え方があり、全体的に危機意識は薄い。その中で学校教育における意識付けをどうしたらよいのか課題がある。道徳教育の分野で「自分の生命は自分で守る」という意識付けを徹底してもらいたい。

㋺いつ起こるかわからない災害に備え、市が作成した避難場所の冊子を各家庭に配布し、周知徹底を図る必要がある。

②学力向上対策実践報告会

成果

㋑各校区の特色を生かした実践報告会であった。会場校では全学年の授業実

践があり、児童生徒の「授業への参加態度」教師の「授業改善の工夫」に触れることができた。

課題

㋑本発表会には何度か参加したが内容を深めるのが困難なのか、児童生徒の学習習慣(家庭学習)、基本的生活習慣、読書力などが毎年問われている。

㋺学対実践報告会は、学校・家庭・地域が連携して児童生徒の学力向上を図るのがねらいであるが保護者の参加が少ない。地域や保護者への呼びかけ、授業参観とのセット、保護者向け講演会の導入など工夫する必要がある。

※「夢・にぬふぁ星プランⅢ」～虹色・未来への架け橋～

浦添市学力推進

目標~てだこの都市（まち）の幼児児童生徒一人ひとりの「確かな学力」を向上させ「生きる力」を育む。

基本方針～１　キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の推進

２　「わかる授業」の構築による「確かな学力」の向上推進

(7) 学校行事への参加（儀式：入園,入学・卒園,卒業式　：体育行事等）

各種学校行事を通して、幼児児童生徒の成長を実感できる場となっている。

① 儀式的行事（入園・入学・卒園・卒業式・周年行事）

感想

㋑ 幼児児童生徒の輝く瞳、保護者の喜び、教師の愛情を感じる儀式が行われており、参加する度に各学校の特色ある取り組みに感動している。

㋺ 各学年のメッセージ、入学式・卒業式テーマ、色とりどりの花の装飾等儀式の雰囲気を高める会場設営がなされている

㋩儀式的行事に参加する度に、園児・児童生徒の学校生活の節目を感じ、次の目標や夢に向かってはばたいてもらいたいと願っています。浦西中学校で九か年の皆出席賞の授与があり感動的であった。

②体育的行事（運動会）

感想

㋑ 運動会は学校教育を地域の人々に理解してもらい地域の連携を図るよい機会である。参加する度に児童生徒一人ひとりが主役になって協力し団結して力を発揮し盛り上げていることに感動する。特に小学校5･6年の係り活動、中学生の自主的運営に触れ、子供たちのたくましい成長を実感した。

③遠足・集団宿泊的行事（セカンドスクール）

他市町村にない本市独自の事業として、特色ある教育活動の一つである。市内全小学校5年生が2泊3日の日程で、東村の豊かな自然の中で、自然体験・農漁業体験・野外キャンプや民泊・冒険活動を行う事業である。

感想

㋑児童が寝食を共にすることで友情を育み、仲間と信頼関係を深める。

㋙地域の人々との触れ合いによって地域の持つ人情や思いやりを学ぶ。
㋚自然の恩恵に触れることで自然を大切にする心を育む。
㋛集団生活を通して規律・協力・奉仕の心を養う。
㋜野外活動を通して心身を鍛錬する。
㋝自分たちの力で自炊する喜びと働く喜びをかみしめることで親の手伝いをする心を育む。
㋞PA 体験を辛抱強くやり抜くことでなばり強く足腰の強いたくましい子供の成長に触れることができた。

㋟子供の感想（2011・7 沖縄タイムス）「三つの心」を学んだ　日島優奈

私は、この一生に一度しかないセカンドスクールで学んだのは「三つの心」です。三つの心とは思いやりの心・感謝の心・感動の心です。その思いやりの心は農家の人たちのやさしさで、感謝の心はパイナップルやマンゴーの畑と自然の美しさです。浦添とは違う空気に思わず「ずっとここにいたいな」と心の中でつぶやいていました。

東村は自然が豊かです。人々もやさしく、私はそんな人になりたいです。「自分でできることは自分でやる。誰かが困っていたら見ぬふりをせずに助ける」というのが一生の目当てになりました。

これからも東村で学んだことを生活に役立てていき、くいのないように過ごしていきます。また東村に行きたいです。

(8) 各種行事、大会への参加

各種行事大会とも綿密な計画に基づいて円滑な運営がなされていた。

①愛の声掛け運動（24 年 6 月 12 日）

本市の特色ある取り組みで高校生を含む地域の多くの人が参加して運動を展開する。

②少年の主張大会（港川中学校）

青少年が日常生活を通して考えていることを広く社会に訴えることにより、同世代の少年が社会の一員としての自覚にめざめることを期待すると同時に青少年の健全育成に対する理解と協力を求める。

感想

少年の主張大会で人前で堂々と自分の意見や考えを述べることは表現力を豊かにし充実した学校生活が送れる。

③ 青少年を健やかに育てる浦添市民総決起大会

多くの市民が参加し、地域ぐるみで青少年を守ろうという意気込みを感じた。

④ 夜間街頭指導

出発前の話し合いの中で深夜徘徊・万引きが多いとの情報提供があった。

⑤ 教育委員会表彰

本市教育の日に個人 7 の市民表彰、87 の善行児童生徒、25 団体の表彰をして

激励することができた。

⑥ 市子ども会まつり

子どもたちの演技を鑑賞し、市の将来を担う子供たちの成長に感動した。

⑦ 消防出初式

消防団員のきびきびした訓練に感動した。

⑧ 平成25年浦添市成人式

市内の中学校区ごとに中学時代のスナップ写真や恩師のメッセージが紹介され温かい言葉に感銘を受けた。浦添市の将来を担う立派な人になって貰いたい。

⑨ 公民館まつり

セレモニーに新市長が参加し新鮮な雰囲気が漂った。2日間多くの市民が参加し舞台では日舞・琉舞・合唱・和箏・三線など伝統芸能を堪能でき感動した。

⑩ 第41期教育研究員「研究成果報告会」

テーマをもって研究した4名の先生方の研究意欲に接し感銘を受けました。プロの教師としての学識、力量、指導技術等研究を通して磨き上げた成果を広く教育界に還元し、子ども達の指導に貢献してもらいたい。

※その他の大会等については、3資料・平成24年度教育委員の活動参照

(9)その他の意見

① 教育委員に対する情報の開示について

教育委員に対しては教育委員会各部局が収集した情報を迅速に開示してもらいたい。

② 給食費（公金）の不足事案について

本件については慎重にならざるを得ず、大変な時間がかかることとなった。この件は総じて適正な処理であったと考える。なお、給食費や学校内の現金の取り扱いについての規則等の整備が必要と考える。

まとめ

- 教育委員は、非常勤とはいえ年間100回を超える本市、学校・地域・PTA・各種団体等の行事が多く、市の教育・文化の発展に貢献している。世間で言われる教育委員会の形骸化の批評は当たらない。
- 家庭の教育力の低下が叫ばれて久しい。教育の原点は家庭にあると認識している。子どもの教育は学校で全て行われるものと認識している親が多いが、家庭・学校・地域社会が一体となってそれぞれの役割と責任をもって果たすことが重要である。学力向上対策の原点も家庭の教育力をいかに高めるかに力を注ぐべきではあるまいか。
- 学校訪問で感ずることの一つは、教職員の多忙化である。日本の教職員の働く時間は世界一長いが、子供たちと向き合う時間は最も短いという調査もある。提出物などやらないよりやった方がいいだろうというぐらいの仕事が多い結果、やらなくてはならないこと（子どもたちとかかわること）ができないのではなかろうか。「多忙化防止協議会」でも設けて無駄を見直し、教職員が教育に専念できる環境をつく

る試みをやってみては　どうだろうか。

- 学校の合同訪問も10月と11月に集中しているが、月に2・3校の分割訪問ができないだろうか。事務局の議会対策や学校の事情などを勘案して実現してほしい。教育委員も早期に学校訪問のテーマを決定すべきである。
- 本市は、これまで市民ぐるみで青少年の健全育成に取り組んでいるが、深夜はいかいや喫煙・飲酒等の問題行動が増加傾向にある。深夜はいかいや飲酒は青少年が事件事故に巻き込まれる危険性や犯罪行為に走る可能性があることを市民一人ひとりが認識し、その未然防止のために地域全体が連携し、青少年の居場所づくり等に取り組むことが重要と思う。